

# ふたかみ NEWS プチトマト

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。  
本年もよろしくお願い致します。

2026年



社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: [futakami@kagayaku-inochi.com](mailto:futakami@kagayaku-inochi.com) <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



## ～駒ヶ谷小学校ふれあいまつり～

駒ヶ谷小学校でのふれあいまつりに参加しました。はびきの園はストラックアウトのコーナーを担当しました。10人1グループで点を競い合い、最後に各グループ1位の人を集めて優勝者を決めました。コーナーは大盛況で多くのお子さんが参加してくれました。参加証のお菓子もとても喜んでくれ、中には「ハピバーや！知ってる！」と言ってくれるお子さんも何人かいました。会場では他にも輪投げやスーパーボールすくい、クリスマスツリー作りなどあり幼児から小学生までたくさんのお子さんが楽しまれていました。地域の皆さんが笑顔いっぱい交流できる場に参加でき、明日への活力をチャージできる大変有意義な時間を過ごせる機会となりました。（安座間）



## ～古着市を開催しました！～

11月29日（土）に府営翠鳥園住宅横の空き地にて秋の古着市を開催しました。11月の終わりのため気温が心配されましたが当日は晴天で暖かい中開催することが出来ました。買い物かごいっぱい買い物されるお客様、「ありがとう」と笑顔で帰られるお客様と様々な出会いがありとても素敵な一日となりました。当日忙しい中来場された皆様や、物品を提供していただいた皆様、ありがとうございました。次回は、2026年3月7日（土）に春の古着市を開催します。ぜひ足を運んでいただければ幸いです。



（波多江ひ）

### ■後援会入会及び更新の方々（敬称略）

2025年11月

- ・田中美希/中島圭一/楠尾薫・・・5口 波多江望・・・4口 山口鋼一・・・3口
- ・金田佑清/高木晶美・・・2口
- ・竹内彩/池田聡子/東侑佑/村松美佳/淡路也重子/辻敏之/辻まち子/辻敏哉  
辻摩美/向山由美/阪本真都・・・1口

■アルミ缶回収（11月分）・・・626kg

ありがとうございます

### ◆2025年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口2,000円 団体会費：1口10,000円】

郵便振替口座：00940-5-325894

個人会費については6月の総会で、2025年度からの会費の改定をしています。

きょうされん 第49次  
国会請願署名・  
募金運動  
全国キャンペーン  
2025年12月～2026年4月

障害があっても安心して  
生活できる社会に

ホームページも  
ご覧ください  
<https://www.kyosaren.or.jp/>

障害者権利条約を  
地域のすみずみに

障害のある人たちの支える  
制度づくりのための  
署名・募金にご協力ください

わたしたちも応援しています

●とりきみあふく事業所

高合 志子 稲葉 剛 竹下 貴子  
代表 奥田 孝

署名・募金活動本部  
ふたかみ福祉会 TEL: 072-959-3221 FAX: 072-959-3264 E-mail: [cominfo@futakami.or.jp](mailto:cominfo@futakami.or.jp)

cafe ハピバー

1月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み  
1日(木)～5日(月)  
10日(土)  
★Instagram★  
[cafe-hapibar.com](http://cafe-hapibar.com)

【お問い合わせ先】072-958-3232



## 「戦後81年にあらためて 思いをはせながらゆく年くる年」

昨年は戦後80年とあちらこちらで取り上げられ戦ができる国へと向かうことへの警鐘が鳴らされた一年でした。

みなさん 明けましておめでとうございます。振り返ると日本で初めての女性の首相が誕生し高い支持率を保っています。平和で暮らしやすい国へと、みなさん期待をもって迎えたことでしょう。何とか物価上昇を抑制する政策や裏金問題を含む政治資金の改正などに取り組んでほしいものですが、どうも軍拡や議員定数削減などに取り組む姿勢が強いようです。福祉予算を削らずに権利としての社会福祉をおろそかにせず、障がい者を含め国民の声を聴く政治に取り組んでいただきたいと願うばかりです。もう一つは昨年の6月27日に最高裁判所で生活保護給付金の引き下げを違法とする判決が出ました。画期的な判決ですが国は謝罪（旧優生保護法の際は謝罪ありでしたね。）もなしで専門委員会なるものを作り原告側の意向を無視した取り組みがなされて

います。生活保護費だけにとどまらずこれからの年金などの給付金にも影響が出る恐れもあります。今後の動向を注視していきましょう。

さて今年大阪では昨年の奈良県、一昨年の滋賀県に続いて「きょうされん第49回全国大会IN大阪」が9月23日・24日に中之島の大阪国際会議場を主会場に開催されます。地元での開催は1997年以来のことです。ふたかみ福祉会からも成功に向けて人、知恵、資金面で全面的に協力していきたいと考えています。ふたかみ福祉会を支えていただいている多くの方々、そして仲間みなさん、家族の皆さん、職員の皆さんとともに頑っていきましょう。

今年もよろしく願います。

（ふたかみ福祉会理事長  
八木昭二）

## 「大阪府交渉」

12月1日、大阪府との懇談（大阪府交渉）がありました。私自身は「暮らしの場・グループホーム」として休日支援や通院支援の大変さについての発言をしましたが、それ以外にも、入所施設の生活介護が当該月のマイナス8日であり、土曜日曜日の手薄な職員配置で仲間を支援しているので、入所施設の（マイナス8日）を撤廃してほしいことなどの要望があげられました。

他にもヘルパーのことや、地域活動センターのことなども要望としてあげられました。障害があっても人として生きる上での「あたりまえの暮らし」をすることは大切です。余暇は「贅沢」なものではなく、余暇を過ごすことで、人とのつながりをもてるようになったり、仕事への活力になります。項目別に要求を伝えましたが、人としての尊厳が守られる社会へとしていきたい、そのために「声をあげ続けたい」と思います。

（関口な）

## 「ヒューマンウェブ」



今年も障害者週間に合わせて実施されるヒューマンウェブ集会（12/9）に参加しました。参加するなかまと事前準備の話し合いを行い、普段の生活で困っていること、はびきの園やガイドヘルパー制度を利用する中で感じることを出し合いました。「もっとおでかけしたい」「職員（ヘルパー）を増やしてほしい」と率直な意見も聴かれて、それを当事者の声としてメッセージボードに書いて当日に持って行きました。

大阪城公園の教育等前広場で冬空の下、大阪府下の様々な事業所から人が集まり、実情を伝え合う中で、はびきの園のなかと同じ思いを抱いている方が多くいらっしやるのが分かりました。最後に大阪府庁前でのアピール行動に臨みました。大阪府独自の福祉・医療・教育施策を打ち出してもらうよう、力を合わせて声を上げることができました。（東）

## 「中堅研修を受けて」

11月22日に、今年度2回目の中堅研修がありました。今回の研修は午前中が大阪健康福祉短期大学の鴻上圭太先生の研修、午後からは中谷千代子先生によるカラーシユ研修でした。

午前中の研修は、6月に受けた研修の続きで、個別支援計画の作成について、大切なことは何なのか、どういう順序を立てて作成していくべきなのかをグループワークも交えながら学びました。個別支援計画の作成に当たって、①情報収集、②情報の整理、③アセスメント、④生活課題の抽出の段階を経るのですが、今回の研修ではそれぞれの段階で気を付けるべきポイントを学びました。最初の①段階の情報収集については、利用者の支援計画を立てる上で最も重要なもので、どれだけ情報を持っているのかが力になりま

す。次の②の段階で、最初に収集した情報の整理の段階に入るのですが、ここではICF（国際生活機能分類）に基づいて、健康状態、心身機能・身体構造（身体の状態）、活動（できること・できないこと）、参加（他者との関わり

の場面）、環境因子（本人を取り巻く環境）、個人因子（性格や考え方など）の6つに分類していきます。ここで必要なのは、それらの情報が『客観的な事実』であることです。この2つの段階を考えてから、それぞれ事前課題として用意していた利用者1人のICF表を用いてそれぞれの利用者の人となりを語るグループワークがあったのですが、客観的に分類したつもりでも、利用者の性格を伝える時に『コミュニケーション能力が高い』『好奇心旺盛』等も主観が混じっていることに気付きました。改めて客観的情報の難しさを感じました。

情報を整理してから、③のアセスメントの今までの情報を収集して把握できた『事実』をもって、利用者の内面を推測する段階に入ります。ここから支援者の主観が入るのですが、ここで注意したいことは、同じ事実を見つめても価値観の違う支援者が見ると、違う推測になるということで、偏ったアセスメント結果にならないよう『集団討議』が必要だということです。

アセスメントをしてから、④の

生活課題の抽出を考えます。生活課題とは、本人の「したい生活」「なりたい人生」と現実とのギャップのことで、この差をどう埋めるのが支援で求められるかです。今後の支援計画を立てる際に、今回学んだ頃を生かし、他の職員とも共有して、なかまの豊かな生活を作っていくうえでどのような支援が必要なのかを改めて考えていきたいと思っています。

午後からのカラーシユ研修は、『自分の気になったもの』をテーマに、個人で思い思いの雑誌や情報誌の写真を切り抜き、なぜこの写真を選んだのかを発表しました。始終和やかな雰囲気

（波多江の）



## 「藤井寺こどもまつり」

11月16日に伴林氏神社にて開催された藤井寺こどもまつりにふたかみ福祉会後援会も参加しました。数多くの団体が参加しており、親子で楽しめるイベントや出店が盛りだくさんのお祭りになりました。

ふたかみ福祉会後援会では、なかまが作った焼き菓子・古着の販売を行いました。同法人の職員や参加されている団体の助けもあり、多くの方の手に取ってもらえる機会となりました。



特に印象に残ったのは、当日イベントを知らなかった方も太鼓や笛の音に惹かれて見に来られる親子連れが多かったことに驚きました。また、神社の前で誘導を行っている「毎年開催されているのか」と声をかけられたり、親子連れからは「楽しかった」との声を聞くことができ嬉しかったです。この機会を通じて親子の楽しそうな声が響くイベントは大事だと改めて感じました。

（矢城）

